

献呈のことば

学長 谷岡 一 郎

片山隆男先生は、本年度で一応の区切りとして退任されます。本号は大阪商業大学の、そして谷岡学園の巨星・レジェンド、片山隆男先生の退職記念号です。まずは心よりお喜び申し上げ、これまでのご尽力に感謝申し上げます。

片山先生は、大阪で万国博覧会が開催された昭和45（1970）年に、大阪商業大学商経学部の助手として谷岡学園でのキャリアをスタートしました。以来半世紀以上が経過していますが、まさにレジェンドと呼ぶにふさわしい方でしょう。昭和48（1973）年には講師、同53年には助教授、そして教授に昇格したのが昭和62（1987）年です。その間、学部長補佐、学部長、副学長などを歴任、さらにエクステンション・センター長や大学院担当教員をはじめ、常務理事など、多くの役職を（奇蹟のような忙しさの中で）こなしていただいています。現在も理事を兼任しつつ、学長補佐の重責を担っていただいていること、まさに感謝しかありません。

片山先生のご専門は理論経済学（特にミクロ経済学）とお聞きしていますが、幅広い博学的な知識をお持ちで、著書や論文もテーマも多岐にわたります。学会活動に関しても、理論・計量経済学会（現在は日本経済学会）、日本経済政策学会、経済社会学会、生活経済学会（その他）と、盛んですが、それより特筆すべきこととして、地元東大阪市からいくつもの審議会や委員会のメンバーを頼まれ、いくつかは座長として活躍なさったことがあります。地元根拠した大学をと考えております私としては、まことにありがたい活動です。そういえば地元民対象の「アーリーバード・ユニバーシティ（朝7時半から、リアクトのカフェで行うレクチャー）」を、エンジン役として進めてくれたのも片山先生でした。今はコロナ禍で休止していますが、早晩再開したいものです。

大学院を作る時、山田浩之先生、高橋哲雄先生など、いろいろな先生の所へつれていただいたこと、今でもよく覚えています。大学院に、野球で言えばメジャー・リーガーとも言える教員を揃えられたのも、片山先生の力によるところが大でした。思い出は尽きません。ひとつの区切りではありますが、まだまだこれからも多くのおつき合いをお願いします。もう一度、おめでとうございました。